

2020年

(令和2年)

1月1日[水]



沖縄大学

発行

沖縄大学同窓会広報委員会

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎・FAX 098 (832) 6560

E-mail

dosokai@okinawa-u.ac.jp

第29号

同窓会報



棚原勝也会長の挨拶



経八会バンド



第60回大学祭



幕開け「かぎやで風、ごえん節、揚作田節」



軟式野球部へ派遣費の贈呈

2020年、新しい年の幕開けを心よりお祝い申し上げます。昨年6月、皆さまの承認をいただき歴史ある同窓会の第14代会長に就任させていただきました。歴代の会長の皆さまの功績に比べると遥かに若輩ではございますが、同窓会の現役員並びに新たな評議員の仲間と共に同窓会の飛躍に向け、精一杯力を尽くしてまいります。

さて、沖縄大学同窓会は昨年、創立55周年の佳節を来賓並びに、諸先輩方や関係者と祝いました。大学もまた健康栄養学部管理栄養学科が新設されるなど新しい時代へと道を切り拓いており、同窓会も5年後の創立60年に向け更なる「人材の拡大」を図ってまいりたいと存じます。また、これまで同窓会が築き上げた未来を担う在学生支援のため

「耐えて耐えられるものは誰もが耐えられるが、耐えがたき苦しみを耐えるのが、本当の忍耐なのだ」という意味です。首里城の焼失は悲しい出来事ではありますが、それによって全てが燃えたわけではありません。戦後首里城の復元へこぎつけた英知と情熱は、今回の炎でさえも焼き尽くすことはできません。私たち同窓会もまた、先達の情熱によって今があることに深く感謝いたします。本年も同窓生、並びに関係者の皆さまにとって飛躍の年であるよう祈念し、挨拶とさせていただきます。



沖縄大学同窓会
会長 棚原勝也

新年のご挨拶



2019年度
同窓会定期総会

会長に棚原氏選出



沖縄大学同窓会定期総会が6月8日(土)に開催され、90人の同窓生が参加した。総会の前に、友利浩会長より、関東支部久高直人支部長へ感謝状の贈呈を行った。総会では小磯誠(ラジオ沖縄制作報道局長兼報道部長)の司会進行のもと、議長団に川満茂雄、島袋格、議事録署名人に宮城恵美子、島袋卓を選出し議案審議に移った。

第1号議案 2018年度事業活動・収支決算・決算監査報告、第2号議案 2019年度事業計画(案)・収支予算(案)、第3号議案 2019年・2020年度役員・評議員(案)について、担当者から説明提案され、質疑の後に承認された。



沖縄大学同窓会創立55周年祝賀会

沖縄大学創立55周年祝賀会は11月30日(土)、同窓会館で約120人の同窓生および教職員らが出席し盛大に開催。会場では首里城再建義援金への協力も呼びかけられた。

会は金城秀美(同窓生イベント司会)の司会進行のもと幕を開け、諸見里安次、金城幸浩、長濱正弘、島袋隆志の各氏が三線(さんしん)を、野村時子氏が琴をそれぞれ演奏した。

主催者を代表し、棚原勝也会長は「55周年の佳節おめでとうございます。これも先輩たちがこの同窓会を築いて発展させたおかげだと、私たち後輩は思っています。大学4年生の時、沖縄大学の歴史を学んで感動し、大学の物語の脚本を書き芝居をすることになりました。大学生が教員と一緒に旧文科省の前で座り込んだというドラマもつくりながら、舞台で沖縄大学の歴史を佐久川教授から教えていただきながら学んだこともよく覚えております。熱い熱い先輩たちのおかげで

今の私たちがいると思います。役員会も評議員会も心を一つにしながら、新しい同窓会として、これまで継承してきたものを、次の世代につなげるのだという思いで頑張っております。55周年を機に今回は沖縄大学で開催致しましたが、60周年は大きなホテルで盛大にお祝いしたいと思っております」と挨拶した。

さらに佐喜真実理事長、盛口満学長、嘉数昇明後援会会長の挨拶が続く、友利浩顧問が乾杯の音頭をとった。その後、舞台では、金城フサ子舞踊研究所が演舞を披露した。

続いて、多年にわたる同窓会発展への貢献に対し、顧問の大城定理氏、崎濱盛喜氏、金城正弘氏、金城正美氏、久米島支部に感謝状と記念品が贈呈された。

受賞者を代表して、大城定理顧問は「我々は同窓会で活躍をしたということで表彰ですが、我々が頑張ったのではなく、周囲の皆さんがいたからこそ同窓会の運営ができました。

代表としていただいたことになりました。私は沖縄大学を卒業したために今の道が開けました。私は別の道を歩こうとしたら、教員から銀行に行けと言われ、金融を学んだからこそ、診断士の仕事を得ることができました。沖縄大学は私の人生のかけがえのない礎です。皆さんも沖大を出て、社会に貢献して頑張っているかと思えます。私たちは同窓会、沖縄大学の協力があって、今日があるということに常に感じています。健康に留意しながら沖縄大学、沖縄大学同窓会のために頑張っていきたいと思っています」と感謝の言葉を述べた。その後、経八会バンド(1部経済学科8期生)、沖大エイサー部「新風」のエイサーが会場を盛り上げた。

会場で首里城再建募金

祝賀会場で首里城再建のための募金を呼びかけ、6万625円が集まった。女性部会、青年部会、関東支部、同窓会からの寄付金と併せて20万円を、12月19日に沖縄タイムス社と琉球新報社へ託した。



受賞者を代表して挨拶する大城定理顧問



嘉数昇明後援会会長による挨拶



開式の辞を述べる稲嶺諭副会長



金城フサ子舞踊研究所による「黒島口説」



友利浩顧問による乾杯の音頭



参加学生の紹介

新年のご挨拶

夢創造・夢実現大学へ



理事長 佐喜真 實

本年は伝統ある法経学部が経法商学部という新しい名称で再スタートする記念すべき年となります。学部改革も着実に進展していますので、3コース制のもとより明確に将来の進路に合わせて学ぶことができます。人文学部は語学、福祉士等の資格習得を目指す学生を多く受け入れてより充実した学部教育を行います。健康栄養学部も2期目の学生を迎えて管理栄養士の養成に向けて学部教育が本格稼働する年になります。大学全体が従来以上に活気のあふれるキャンパスになることが期待されています。

沖縄県の大学進学率は2019年度に前年より0.5ポイント増の40.2%と過去最高となりました。そのような中、本学が魅力ある大学として、進学意欲の高い学生を多く受け入れ

ることを目標に大学改革を進めているところです。

本学は創立以来、高等教育機関として、時代の要請に的確に答えつつ、学生の「夢実現」に向けて教育活動を行ってまいりました。本学で学ぶことで、米国立留の夢が叶った、教員になったなど多くの嬉しい声があります。大学は夢を創造する場でもあります。多くの学生が授業を通して様々なヒントを得ることで、自分の進むべき道が分かったなチャレンジに取り組んでいます。

学生数が増えることで、駐車場増設の要望が高まっております。この声に応えるべく、「がんばる食堂」の裏手に新たな駐車場を設置し本年四月には供用を開始する予定です。就学環境の整備が学校法人の重要な使命ですので、駐車場のみでなく教室、校舎も「夢創造」の場に相応しい魅力あるものにすべく努めてまいります。

本学同窓会には今後引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

地域の幸せを使命に



学長 盛口 満

21世紀が始まった2001年の正月。その折の私の予想とは全く異なつた20年がすぎようとしています。

振り返れば、旧年中は、増税導入、新基地建設の断行、ヘイトの横行、対米追従外交の深刻化、気候変動の予兆を思わせる災害の出現等、私たちのこれからの未来にさらなる困難が待ち受けていることを思わされることの多い日々でした。これらの出来事は、これまでの日本が積み上げ、はたまた積み残してきたこととの結果といえるものです。これらのことにどのように対処したらいいのかと考え、無力感に襲われ、それでも、自分のできることを考えていかなければと思ひなおす、繰り返しの日々でもありました。

そうした中でも、沖縄と

いう土地に暮らしていると、まだ、いくばくかの安心感を抱く思いがあります。「本土」から歴史的にも、地理的にも、ある一定の距離がある分、「おかしな流れ」を、一歩離れたところから見ることができ思いがするからです。そのようなことからすれば、日本という国にとつて、沖縄は、今後、ますます貴重な存在となるでしょう。

沖縄大学は、そうした土地にあり、設立当初から一般の人々とともにあることを目指している大学です。時代を超えて、地域で幸せに暮らしたいと思う人々の力になることは、沖縄大学の変わらぬ使命であることは間違いないでしょう。

自分の目の届く範囲である地域という土台に足を置き、自分の目の届かない範囲について、たくさんの人々の声を聴くことが、学生たちにとつて何より必要なことだと考えます。そのため、立つ地を同じくしながらも、異なった年代の方々の集う、同窓会は、大学にとつて重要な存在であるという思いを新たにしています。



新旧理事長慰労激励会

沖縄大学事務局 金城直樹

2019年8月3日、同窓会館において学校法人沖縄大学新旧理事長慰労激励会を開催し、法人役員・教職員、同窓会役員及び後援会役員を中心に関係者80人余りが集いました。

挨拶に立った盛口学長、嘉数後援会会長、棚原同窓会会長からは、それぞれ、長濱正弘前理事長に対する長年のご功労への敬意と、佐喜真實新理事長の活躍を期待する言葉が述べられました。

長濱前理事長は、理事長任期7年9カ月を振り返り、「健康栄養学部の開設、創立60周年事業を無事に終え、役割を果たせた。今後は佐喜真新理事長に安心して任せられる」と挨拶されました。また、サブライズプログラムとして琉球古典音楽の独唱を披露いただき、会場は大いに盛り上がりしました。



佐喜真新理事長からは、長濱前理事長への感謝の言葉とともに、今後に向けて「学生、教職員の夢創造・夢実現の場として、大学・同窓会・後援会が一丸となってサポートしていきたい」と決意と抱負が述べられました。最後に、お二人が固い握手を交わし、新旧理事長のバトンタッチが行われました。

学部学科名の変更

教務課長 安里 賢吾

2020年4月から「経法商学部経法商学科」へ名称が変わります。現在の法経学部は、1997年に法経学部法学科と経済学科を統合して、法経学部法経学科となりました。以来、地域に根ざした法学、経済学、経営学(伝統的には商学)を教授研究し、地域社会に貢献できる人材育成を目的としてまいりました。今回、これまでの「法律」と「経済」に加え、高校生が何を学べるかイメージしやすい「商学」の「商」を含む名称に変更することとなりました。

入学定員と教育課程に変更はありませんが、2020年度の入学生のみならず、在学生を含めた名称変更となります。沖縄の未来を担う人材育成を行う学部を目指しますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

同窓会奨学生 近況報告

創価大学法科大学院未修者

一年 根間 玄実

沖縄大学法経学部法経学科を卒業し、今年度から創価大学法科大学院未修コースに入学いたしました。

法科大学院未修コース1年次の間の学修は、主に司法試験合格に向けた法学の基礎知識の修得にあります。

大学院での高度に専門的な学修であるということもさることながら、沖縄と本土の意識や文化の違いに戸惑うことも多くあります。

そのようなときには、友利会長をはじめとする同窓会の皆様からいただいた、あたたかい言葉や激励のお言葉を思い出しながら、日々勉学に励んでおります。

今後は、2年次、3年次とさらに高度な専門的知識を身に付けながら、まずは、司法試験合格を目指し日々努力を惜しむことなく学びを進めて行きたいと思っております。

そして、晴れて法曹となることができた暁には、身につけた知識を沖縄に還元できるような存在となれるよう日々精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願います。

鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻

嘉手苅 瑠輝



右から二番目が本人。法科大学院同期友人とともに



同期と心理面接の練習をしている様子

2019年4月に大学院に進学し、早くも半年が過ぎました。本専攻では、臨床心理相談センターでの臨床実習をはじめ、医学部の附属病院での実習など、医学系研究科ならではの実習が用意されており、講義においても、医学

関連の科目が充実しています。また、発達障害児への療育やペアレントトレーニングに携わっており、子どもとのかわり方について日々学びを深めております。研究では、小学校の教員の学級での効果的な子どもへのかわり方について調査を行なっています。

小学校でのボランティアを通して、教員と子どもの実態を把握したり、多くの論文を拝読したりと、着々と研究を進めております。今、こうして学ぶことができるのは、沖縄大学の同窓会の皆様が奨学生として受け入れてくださったことや、これまで多くの支援をくださった先生や家族のおかげです。これからも、支えていただいた方に感謝しながら、沖縄に貢献できる人材になれるよう勉学に励みたいと思います。

琉球大学教育学研究科専門職学位課程高度教職実践専攻（教職大学院）

仲山 夢乃

私は3月に沖縄大学子ども文化学科を卒業し、琉球大学教育学研究科専門職学位課程高度教職実践専攻（教職大学院）に入学しました。大学時代からのテーマとして持続けた「良い

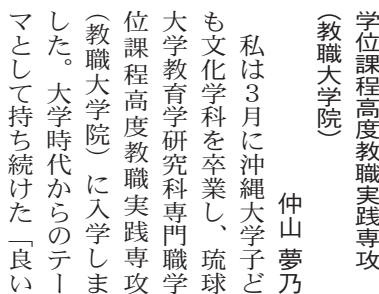
授業とは何か」という課題意識のもと、理論と実践の往還を掲げた大学院で、研究を進めています。

教職大学院は、現場経験豊かなベテランの先生方と、私のような大学を卒業してすぐの学生が同期として一緒に学ぶことができるので、絶えず教育現場の実情に触れながら研究に取り組みます。前期は週1コマの講義に加え、小学校・中学校・特別支援学校での観察実習、さらに10日間の課題発見実習を通して、自らの授業実践における課題を明らかにしてきました。

沖縄大学で素敵な先生方や同期と出会えたことで、教育に対する信念が芽生え、今の環境で学びを深められています。今後も、支えていただいている環境に感謝し、地域社会に貢献できるよう、精進していきたいと考えています。

琉球大学教育学研究科専門職学位課程高度教職実践専攻（教職大学院）

院生室で授業後のリフレクション



院生室で授業後のリフレクション

2019年度 沖縄大学同窓会 奨学生募集について

沖縄大学同窓会は、将来沖縄の地域社会及び沖縄大学への貢献を期待できる人材の育成を目的として、左記のとおり奨学生を募集します。

1. 応募資格
 大学の卒業生又は卒業見込の学生で、優れた能力をもち、将来同窓会への積極的参加及び沖縄の地域社会に貢献が期待できる者で、次の各項のいずれかに該当する者。

(1) 沖縄大学の大学院に進学する者

(2) 国内外の大学院に進学または研究機関等で研究する者

(3) 短期大学の卒業生で、外国の大学の学部に進学・編入し将来が期待できる者

※ただし、修士課程（博士前期課程）、博士後期課程、専門職学位課程の場合は各1回とする

2. 金額
 (1) 奨学金の額は、本学同窓会の奨学金予算の範囲内で支給する

(2) 支給期間は1年間とする

3. 提出書類
 (1) 奨学生願書（所定様式1、2）
 (2) 奨学生推薦調書（所定様式3 ※開封無効）

※奨学生推薦調書は学科長、ゼミ担当教員等に記入を依頼して下さい。

※奨学生推薦調書は記入依頼後、厳封のうえ提出して下さい。

(3) 振込口座申請書

(4) 学業成績証明書
 ※大学院在学学生は、上記に加え、大学院の成績証明書と在学証明書を提出して下さい。

※本学の学生及び大学院生は、提出不要です。

(5) 合格、受入証明書等（進学先や受入機関の発行するもの）

※サイトに奨学生願書を添付いたしますので、ご利用下さい。

※ご記入、ご提出いただいた情報は、奨学金業務（選考・採用等）のために利用され、その他の目的には利用されません。

4. 受付期間
 2019年12月2日（月）～
 2020年2月28日（金）（※期間厳守）

5. 書類提出及びお問合せ先
 沖縄大学同窓会事務局
 TEL：098-832-6560
 E-mail：dosokai@okinawa-u.ac.jp

沖縄大学学生支援課
 TEL：098-832-7182
 E-mail：gakuseika@okinawa-u.ac.jp

新年のあいさつ

沖縄大学支援同志会会長 新垣 淑典

謹んで初春の新年のお慶びを申し上げます。

昨年は「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の名称で世界遺産に登録された、県民にとって象徴的な建造物である首里城が、火災により正殿ほかが焼失し多くの県民の心に大きな痛手を残してしまいました。しかしその後の県内、国内、さらには海外からも多くの支援が寄せられている現状を見ますと、再びあの姿が見られるのもそう遠くはないのでは、と勇気づけられています。

翻って沖縄大学では新学部である健康栄養学部管理栄養学科が2019年4月に開設され、沖縄県内で初めてとなる管理栄養士養成

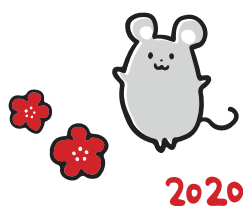


学科が誕生し新しい歴史がスタートいたしました。

支援同志会におきましては、1生活支援、2学業支援、3県内遠隔地出身学生4会員拡大、5会員相互の親睦を図ることを目的とし、2020年度においても具体的な支援活動を基に、既存会員の皆様への再度のご協力をお願いすると共に、新たに賛同いただける個人・企業の皆様の幅広く募りたいと思います。

今後も沖縄大学の学生を様々な形で支援し、社会に送り出すことを目的にさらなる支援の輪が広げられるようご理解、ご支援を宜しくお願いいたします。

結びに本年が皆様にとって大きな飛躍の年となりますよう心より祈念申し上げます。新春のご挨拶いたします。



関東支部活動について

支部長 仲宗根 政則

12月7日(土)に、東京・神田の沖縄料理店で関東支部忘年会を開催しました。同窓会本部からは奥間

事務局長にご参加をいただき、泡盛と美味しい沖縄料理を食べながら、あつという間の3時間でした。一人ずつ簡単に今年1年の変化や取り組んでいることなどコメントいただき、そのご活躍を共有化することはいよいよ刺激になりました。

また、今回の忘年会開催日は、同窓会創立55周年記念行事の1週間後であり、その行事内容を報告しますとともに、関東支部運営費から首里城再建に向けた寄付をさせていただくことを決定しました。



女性部会活動について

部会長 熊谷 フサ子

ハイトイ。今年度部会長に就任しました。ユタシクウニゲーサピラ。

活動方針

会員相互の意見を取り入れた活動と沖縄大学教員の専門を活用した「一歩進んだ学習の場づくり」です。去る10月25日に「盛口満学長を囲んで」お話し、第1回女性部会を開催し、これからの活動計画を承認致しました。

今年度の活動計画

- ①王志强教授による中国のお正月・餃子を作る
 - ②健康栄養学部教員による「美容と健康」の講演
 - ③前田舟子講師による「古文書」を読み解く
- 月1回、沖縄大学を会場として開催予定です。昨年3月卒業の新メンバーも加わった女性部会です。ご支援下さい。



沖大祭を終えて

第60回実行委員長 具志堅 萌

11月3日、4日の両日、第60回沖大祭を開催しました。

今年度は沖大祭の記念すべき60周年ということで、「還暦迎えました。今夜はこのまま沖大祭く泡と光のイリュージョン」をテーマに、沖縄大学が一段と盛り上がり、来場者の方々とともに思い出深い夜になるように実行委員一同頑張ってきました。

実行委員は昨年5月から活動を始め、学校の空きコマや夏休みなどを利用し、沖大祭の来場者の皆様と一緒に楽しく始めるように試行錯誤しながら、沖大祭をつくってききました。初日は雨のため屋内でのステージに急遽変更になりましたが、たくさんの方々が集まり、アーティストさんと観客の皆さまが一緒に歌う場面もあり、楽しい雰囲気です。2日目は、雨も少し降りましたが屋外での開催ができました。前回大成功した「泡パーティー」を今回も

実行委員は昨年5月から活動を始め、学校の空きコマや夏休みなどを利用し、沖大祭の来場者の皆様と一緒に楽しく始めるように試行錯誤しながら、沖大祭をつくってききました。初日は雨のため屋内でのステージに急遽変更になりましたが、たくさんの方々が集まり、アーティストさんと観客の皆さまが一緒に歌う場面もあり、楽しい雰囲気です。2日目は、雨も少し降りましたが屋外での開催ができました。前回大成功した「泡パーティー」を今回も



2019年保護者懇談会

学生支援課 浜比嘉大祐

本学に通う学生の保護者と大学との連携を密にし、より充実した学生支援を行うため、保護者懇談会が後援会・同窓会の協力の下、夏季休暇期間中の8月から9月にかけて行われました。

開催日程は、8月29日（木）に久米島地区が行われ、9月10日（水）に北部地区、9月14日（土）に中南部地区が開催されました。

9月4日（水）、5日（木）にかけては宮古・八重山地区の開催が予定されていましたが、台風の影響もあり残念ながら中止となりました。中止となった地区については保護者からの個別相談を随時受け付けています。

面談会では保護者の皆様と教職員が学生の修学状況や課外活動、家庭での状況



中南部地区。
挨拶をする
棚原同窓会会長



久米島地区。挨拶をする同窓会久米島支部の宇江城支部長



北部地区の
面談の様子



北部地区。挨拶をする
稲嶺同窓会副会長

が話されたほか、就職相談ブースや成績相談ブースも設けられました。

面談会終了後には各地区とも懇親会が行われ、保護者や後援会、同窓会、教職員との交流が行われ、懇親会の中でも大学教育のヒントとなる貴重な意見を保護者の皆様から頂きました。

保護者の参加者数は、久米島地区5人、北部地区27人、中南部地区178人で合計210人の参加となりました。

学生支援課では、より多くの保護者の皆様が参加し有意義な意見交換ができるよう、充実した保護者懇談会の開催をしていきたいと思っています。保護者の皆様にとって大学の取り組みや4年生の就職状況、奨学金などの情報を知る場として有効に活用して頂きたいと思っています。

沖縄大学
陸上部OB会

事務局 平良 裕



沖縄大学陸上部OB会は、1993年に発足して、今年で27年になります。会の設立当初の目的「OB会会員相互の親睦を図ることと、学生の心身の発展と物心両面から支援すること」を掲げてスタートを切りました。

今日まで、紆余曲折はありましたが、多くのOB会員と沖縄大学同窓会の協力（総会・忘年会に毎年参加）にも支えられ、OB会の活動を止めることなく前に進めることができました。

OB会は今後も設立当初の目的を果たし、沖縄大学、沖縄大学同窓会と連携を図り協力しながらともに歩んでいきたいと思います。



社会福祉士授与式

福祉文化学科国家試験対策委員長 久貝 興徳

8月8日（木）、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格者（2018年度12人）に対する表彰状及びお祝い金授与式が開かれました。沖縄大学同窓会役員の方々が福祉文化学科を訪問し、棚原勝也同窓会会長から合格者一人ひとりに対して表彰状、お祝い金の授与が行われました。また、在校生・卒業生に対して棚原会長の実際の経験をもとに福祉の重要性についてのお話と激励の言葉が贈られ、会場は厳かな雰囲気になったとされました。今後も同窓会の皆さまのご期待に背かぬよう、学生・教員一同協力して国家資格を取得し、福祉専門職として貢献してまいりたいと思います。



沖縄大学軟式野球部の活躍

沖縄大学軟式野球部監督 玉城 祥梧



2019年度沖縄県大学軟式野球秋季リーグ戦が9月に開催され、軟式野球部は準優勝し、沖縄県連盟第二代表として第36回西日本大学軟式野球選手権大会に出場しました。主力の4年生最後の大会ということもあり、西日本優勝を目標に取り組んできましたが、準々決勝で同志社大学に敗退し、ベスト8の成績となりました。県大会では、球場まで足を運んでいただいたの応援、また西日本大会出場に際しては沖縄から多くの声援と金銭的なご支援をいただきチームを代表して厚く御礼申し上げます。

また、今年度は全日本大学軟式野球連盟主催の国際親善大会に、日本代表選手として金城良樹（福祉文化学科4年）が選出されました。沖縄大学からは通算3人目となる日本代表の輩出であり、大変名誉なことであり、大変名譽なことであり、12月にグアムで行われる大会へ派遣するにあたり、沖縄大学同窓会より手厚いご後援を頂き、感謝申し上げます。

今後とも学生共々精進して参りますので、大学関係者の皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2019年度沖縄県大学軟式野球秋季リーグ戦が9月に開催され、軟式野球部は準優勝し、沖縄県連盟第二代表として第36回西日本大学軟式野球選手権大会に出場しました。主力の4年生最後の大会ということもあり、西日本優勝を目標に取り組んできましたが、準々決勝で同志社大学に敗退し、ベスト8の成績となりました。県大会では、球場まで足を運んでいただいたの応援、また西日本大会出場に際しては沖縄から多くの声援と金銭的なご支援をいただきチームを代表して厚く御礼申し上げます。

また、今年度は全日本大学軟式野球連盟主催の国際親善大会に、日本代表選手として金城良樹（福祉文化学科4年）が選出されました。沖縄大学からは通算3人目となる日本代表の輩出であり、大変名誉なことであり、大変名譽なことであり、12月にグアムで行われる大会へ派遣するにあたり、沖縄大学同窓会より手厚いご後援を頂き、感謝申し上げます。

今後とも学生共々精進して参りますので、大学関係者の皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



玉城祥吾監督



沖縄大学軟式野球部員たち

人物シリーズ 活躍する 同窓生 ⑮

大蔵 宗元さん

経済学科経済学コース
1997年卒業



この人物シリーズは、同窓生の社会的活動を紹介するとともに、同窓生同士のネットワークを広げることと、在学生へのメッセージを通して沖縄大学との絆を深めたいとの趣旨で企画されました。今回は嘉手納高校教諭で同校野球部監督大蔵宗元さんです。

現在のお仕事は？

高校の教師をしてはや20年になります。授業は主に歴史を担当しています。個

人的には夢になれる科目なのですが、面白さを生徒に伝えることに関しては四苦八苦している現状です。歴史の魅力をなんとかうまく伝えるべくを研究中です。野球に関しても同様で、魅力や醍醐味を選手にうまく伝えることを考えながら過ごす日々です。好きなことを仕事に持てて幸せです。

最初に採用された職場は沖縄水産高校でした。当時まだ裁先生が健在で、コーチとして名門沖縄水産高校野球部に関わるとは夢にも思いませんでしたが、おかげさまで多くのことを学ぶことができました。裁先生は勝負に対して厳しい方でしたが、人情味あふれる人柄で、当時を振り返ると様々な経験や場面が頭をよぎります。裁先生と一緒に甲子園へ行くことを目標に過ごす日々でした。目標は叶いませんでした。裁先生と出会えたことに大変感謝しています。

その後赴任した南風原高校は、最初なんとか9人揃うという弱小チームでした。7年間南風原高校で過ごしましたが、当時の選手たちには申し訳ないくらい、がむしやんな野球漬けの生活

でした。今の自分もそうですが、教師の仕事も野球の指導も、反省の繰り返しで、試行錯誤の繰り返しです。一度うまくいっても、次うまくいかないことは多く、生徒の特性に対応する引き出しを増やすことや観察力を磨くことの必要性を痛感した時期でした。

嘉手納高校に赴任して、4年目に甲子園出場を果たすことができました。そのとき活躍した投手の仲地玖礼やショートの古謝巧真らは現在沖縄大学でプレーしており、神宮大会出場の悲願を達成してくれることを楽しみにしています。

沖縄大学入学のきっかけは？

知念高校から進学しましたが、知念高校野球部の先輩が多く活躍する沖縄大学ならいけるかもしれないと思い、スポーツ推薦で受験しました。当時在学していた先輩の力添えもあり、なんとか入学することができました。

在学中の思い出は？

楽しかった思い出は尽きることなく出てきます。常

に野球部の仲間と過ごしていたので、周囲からは野蛮な集団に見られたかもしれませんが、恥ずかしながら人にもよく迷惑をかけていました。同級生、先輩、後輩と良い仲間に恵まれ、今でも当時の仲間に助けてもらうことが多いです。野球に関しても4年秋のシーズンまで没頭しました。

投手としてプレーしましたが、特に現在沖縄大学で監督をされている3つ先輩の大城貴之さんとバッテリーを組めたことは印象に残っています。大城監督は高校の先輩でもあり、キャッチングが上手く、投手の持ち味をうまく引き出す頭脳派捕手でした。大城監督には大事な試合で起用されることも多々ありましたが、役割を果たせなかった試合の方が多かったです。授業に関しては教職課程をとれたことが今の自分に結びつきます。沖縄大学に進学したことは私にとって良い選択でした。

大学卒業後の進路は？

卒業後は県外に行き、最初の1年間は札幌でアルバイトをしました。沖縄から

出たことがなかったのので、札幌では本当に貴重な体験を積みました。沖縄に帰ってから26歳途中までは知人のもとで石材を貼る仕事をしながら勉強して、26歳で採用試験に合格することができました。

沖縄大学への期待と在学生へのメッセージを

我々が学生の頃と違って、先行きが見えにくい時代です。なかなか将来を見いだせない学生も多いのではないかと思います。時代の流れが変わることは歴史にはつきものです。今まさに時代の転換期。そんな中

でも大切にしてほしいことは「自分はこう生きる」という軸をつくることです。「世の人は我を何とも言わば言え 我が成す事は我のみぞ知る」

これは信念を貫き生きた幕末の志士、坂本龍馬の辞世の句です。学生には、決して周りに流されずに信じたい道を進んでほしいです。そのためには、しっかりと勉強して経験を積み、力を養う必要があります。刺激的な出会いも必要です。生き方を定めて貫く時間こそ、充実感や達成感を味わえるのではないかと思います。私もこの言葉を励みにまだまだ張り切っています。



沖縄大学時代の大蔵宗元さん。後列右から2人目

文芸

ハイビスカスの花



松永勝利

1988年法経学部卒

山田洋次監督の映画「男はつらいよ」シリーズ48作のうち、監督が最も気に入っていた作品は25作目の「寅次郎ハイビスカスの花」だ。1980年に公開され、大半が沖縄ロケで、沖縄の人々にも強く印象に残っている作品だろう。

東京で18歳まで過ごした私は中学3年の時、この映画を東銀座の松竹セントラルという映画館で見た。沖縄で体調を崩して入院した朝丘ルリ子さん演じるリリーを寅さんが追い掛けて来県する。牧志の公設市場周辺などが登場し、寅さんが沖縄で縦横無尽に駆け回る名作だ。

不思議なシーン

不思議なシーンが存在する。那覇空港で寅さんは路線バスに乗り込んだ。すぐに眠り込んでしまう。バスは北谷町が嘉手納町へと差し掛かる。爆音を立てながら飛んでいく米軍の戦闘機が映し出される。それでも寅さんは眠ったままだ。

このシーンには台詞が一切なく、何もなくったかのように次のシーンへと転換する。監督はこの場面でも何を伝えなかったのか。疑問が残った。

山田監督に会う

映画を見た3年後、私は沖縄大学に入学し、沖縄で暮らし始めた。卒業後は琉球新報に就職し、沖縄暮らしは今年で36年を迎えた。3年前、琉球新報の大型インタビュー企画「ゆくい語り」で、監督に話を聞く機会があった。

取材場所は東銀座の松竹本社。37年前に「寅次郎ハイビスカスの花」を見た場所の道向かいだ。質問はやはり「ハイビスカスの花」に多く向かった。

監督が初めて沖縄の地を踏んだのは1979年。その時の印象をこう語った。

「那覇市の街の中を歩きながら、1945年の6月ごろ、ここはどんなことになってたのだろうかと思った。戦闘が繰り返され、砲弾が飛び交い、戦車が通り、兵隊が走ったり、人々が死んだりしたのだろうと道を通りながら思いを巡らせた。厳粛な気持ちになった」

監督は沖縄戦に思いを巡らせた。当時の沖縄は観光地として光が当たり、美しい青い海を求めて全国から観光客が訪れ始めていた。そのことに触れながら監督は「でもね、沖縄にそんな遊びに行くなんてねえ。そんなことしていいのかと。沖縄はいわば戦争の傷跡を色濃く残した聖地だ。その海岸で、裸で泳ぐなんてことはすべきではないと思う」と話していた。

沖縄の記者が撮影後押し

監督は「男はつらいよ」の次回作を沖縄で撮影しようとして下見に来ていた。しかし現地にきて、ためらいを感じた。沖縄滞在中、山田監督は沖縄の新聞記者たちと一緒に食事をしながら懇談した。その時、素直に記者たちにこう吐露した。

「寅みたいないい加減なふざけた人間が来ちゃいけない場所だと思う」

すると記者に笑われながらこう言われた。「いいじゃないですか。そんなこと考えないで、連れてきたらいいじゃないですか」。監督は「こう言われてちよっと安心した。それで撮影することにした」という。私たち沖縄の新聞記者の先輩が監督の背中を押していたことを知り、少しうれしくなった。

基地の重圧を告発

バスで居眠りをしている寅さんの頭上を米軍戦闘機が爆音を鳴らしながら飛んでいく不思議な場面の意図も聞いた。

「初めて沖縄に来て、嘉手納基地を見て驚いた。こんな巨大な基地があるのが沖縄なのかと。異様な島だと思った。だから映画に入れた。でも寅はバスの中で寝ていて気付かない。基地のことに何の感想も漏らさない。一番大事なことをすーっと素通りしちゃう人間だ。寅はばかだから気付かないんだが、でも観客はいろんなことを考えていく。沖縄にはこうしたことが背

後にあるんだということを。でも寅が起きていれば、寅なりに感想を言っただろう。そんなに間違ったことは言わないはずだ。『ここは日本なのに、独立した国なのに、なんで米軍基地があるんだ』ということぐらいは言っただろう」

監督は沖縄戦のことだけでなく、戦後から現在へと続く、沖縄への米軍基地の過重負担の現実についても映画に取り込もうとしていた。その思いに触れ、心が震えた。

インタビューが一段落した時、私は松竹本社の窓の先を指して「道向かいにあった松竹セントラルで、あの映画を見て、その3年後、私は沖縄で暮らすことになりました」と説明すると、山田監督はうれしそうに表情を浮かべ「へえ、そうか。寅さんの影響か。わはははは」と声を上げて笑った。

暗がりの映画館から出てきた中学生の少年が、37年後にその映画をつくった監督と向き合い、映画のことを聞く機会を得られるなんて考えもしなかった。私を沖縄に導いてくれたのは、きっと寅さんだったのだろう。

福祉文化学科
同窓会

福祉文化学科設立20周年記念として、「ホームカミングデー」（学科同窓会）を2020年2月24日（祝）に沖縄大学にて開催いたします。詳細は大学ホームページをご覧ください。

福祉文化学科3期05年卒

海野高志

wcomin5411@gmail.com

編集後記

新年おめでとうござい
ます、会報第29号をお届け
します（年2回発行）。
寄稿していただいた方々
に感謝申し上げます。今
号は、昨年開催された沖
縄大学同窓会創立55周年
祝賀会の記事を中心に編
集しました。限られた紙
面に記事をどう盛り込む
かが毎号編集委員の課題
です。分かりやすい紙面
づくりをこころがけ、で
きるだけ多くの同窓生の
登場と、「活躍する同窓生」
や「文芸」欄を中心にこ
投稿をお待ちしています。
ネットワークづくりが編
集方針です。

沖縄大学同窓会

広報委員会委員長

小川勇作